

特別講演 I

大会第1日目 14:15~15:45



Ultimate Suction Denture ! 「100%吸着」と「高度顎堤吸収症例」に挑む

佐藤歯科医院 ラ・フランスオフィス院長 佐藤 勝史

歯周病治療の進歩、無歯顎になる年齢の遅延、平均寿命の延伸等の要因により、顕著な高度顎堤吸収症例が年々増加しているように臨床で見受けられる。そこで今回、下顎高度顎堤吸収症例の下記の特徴を解説し、対処法とそれらを配慮した“吸着”下顎総義歯製作法を紹介する。

1) レトロモラーパッドの変形

レトロモラーパッドは、線維性組織が豊富な硬い前方と、腺組織が豊富な柔らかい後方との2種類で形成されている。柔らかい組織が全体の多くを占めると開閉口における変形が大きくなり、その一顎位を捉えて同部の義歯床を適合させるのが難しくなる。

2) 顎舌骨筋線下部のあたり

顎舌骨筋は、顎舌骨筋線と舌骨に付着しており、安静時はその筋を弛緩しているが嚥下時に収縮させて嚥下を行う。その時に結果的に顎舌骨筋が上方に移動しており、特に顕著な高度吸収顎堤では、同部義歯床と接触して疼痛・潰瘍を引き起こしやすい。

3) 開口時の口腔底の迫り上がり

閉口時と開口時では、口腔底の高さが一律に一定ではない。高度吸収顎堤では、開口すると口腔底が迫り上がる症例が増える傾向にある。

4) 顎堤の平坦化

高度吸収顎堤では顎堤が平坦化する傾向にある。著しく平坦化した顎堤では、義歯が定位置に収まりづらい。定位置に収まらなければ密着・吸着は発現しない。

5) 密着できる顎堤粘膜面積の狭小化

高度吸収顎堤では、密着できる顎堤粘膜面積の狭小化が起こる。狭小になればなるほど密着度が低下する。

6) 粘膜の菲薄化

高度吸収顎堤では、粘膜の菲薄化が進み疼痛や潰瘍を引き起こしやすい環境となりやすい。

7) 下口唇の舌側への位置移動

高度吸収顎堤では、口腔前庭の狭小化が進行し、下口唇の立ち上がりが顎堤頂付近になることもある。それに伴い、下口唇の舌側への位置移動が起こる。また、下顎総義歯吸着100%へ挑む取り組みも提示したい。

プロフィール

【ご略歴】

◎おもな役職・研修会
日本顎咬合学会理事 元東北支部支部長
有床義歯学会 (JPDA: Japan Plate Denture Association) 理事
JCPG (日本臨床歯周療法集談会) 理事
GC総義歯セミナーインストラクター
リヒテンシュタインにてBPS Dentistの認証を取得
勝史塾主宰

◎おもな受賞歴

2004年 日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞
2005年 日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞
2020年 日本顎咬合学会 一般口演優秀発表賞受賞

◎おもな著書

【What is Suction Denture?】(デンタルダイヤモンド社, 2014) 著
【This is Suction Denture】(デンタルダイヤモンド社, 2017) 著
【Suction Denture パーフェクトガイド】(デンタルダイヤモンド社, 2017) 編著
(上記3冊は韓国語訳書籍・ロシア語訳書籍としても発刊)
【“Questions!” about Suction Dentures】(デンタルダイヤモンド社, 2021) 著
(韓国語訳書籍としても発刊)
【Ultimate Suction Denture!】(デンタルダイヤモンド社, 2024) 著
◎DVD
【吸着理論がわかる!阿部二郎の下顎総義歯吸着テクニック】(医療情報研究所, 2019)
【高度吸収顎堤症例に対する吸着下顎総義歯での対応法】(日本訪問歯科協会, 2021)

特別講演Ⅱ

大会第2日目 9:30~11:00

口腔細菌と健康

東京歯科大学 微生物学講座 名誉教授 石原 和幸



体の表面には人体を構成する細胞の10倍にも達する細菌が住み着いています。これらの菌群は、常在細菌叢と呼ばれ、ヒトと共生しています。これらの細菌叢を構成する菌種は、その存在する部位の環境の違いを反映して異なり、腸内細菌叢、皮膚細菌叢というような名称で呼ばれています。口腔にも口腔特有の細菌叢が存在します。デンタルプラークは歯の表面に構成されている常在細菌叢です。常在細菌叢は通常生体に無害であるとともに病原体の定着阻害といった宿主の利益となる作用を持ちます。しかし、そのバランスが乱れると（構成菌種の変化が起こると）病気につながる場合があります。近年、700種を越す口腔細菌全体の組成を明らかにすることが可能になり、このようなバランスの乱れについても解析が可能になってきました。これに伴い、口腔の2大疾患である齲蝕と歯周病の病因についても、特定の細菌が起こすのではなく、細菌叢のバランスの乱れが主要な役割を果たすと考えられるようになってきました。さらに、口腔疾患は、心冠動脈疾患、糖尿病、アルツハイマー病等の疾患にも影響を与えることが示唆されています。このような作用は、病原体の侵入を防いでいる上皮を始めとするバリア機構が齲蝕による歯髄の露出や歯周炎による歯肉溝上皮の断裂によって失われるということを考えると当然のように思えます。ただ、実際にどのようなメカニズムによって影響を与えているのかについては不明な点が多い状態です。

本講演では、口腔疾患を起こす常在細菌叢の乱れ、口腔疾患の他臓器の疾患への影響等について今どのようなことが解ってきているのかを中心に考察したいと思います。

プロフィール

【ご略歴】

1985年3月 東京歯科大学卒業
1989年3月 東京歯科大学大学院歯学研究科（微生物学専攻）修了
1989年4月 東京歯科大学微生物学講座 助手
1992年2月 アメリカ合衆国Texas大学に留学
1993年7月 アメリカ合衆国New York州立大学に留学
1994年4月 東京歯科大学微生物学講座 講師
1997年10月 第9回歯科基礎医学会賞（微生物学部門）受賞
2000年5月 平成11年度日本細菌学会黒屋奨学賞受賞
2002年4月 東京歯科大学微生物学講座 助教授
2007年4月 東京歯科大学微生物学講座 准教授
2007年10月 日本歯周病学会学術賞受賞
2008年4月 東京歯科大学微生物学講座 教授
2025年4月 東京歯科大学名誉教授
2025年4月 東京歯科大学微生物学講座客員教授

現在に至る

所属学会

日本歯周病学会理事、歯科基礎医学会代議員、日本細菌学会評議員

北海道歯科医師会はワン・ヘルスに賛同して、北海道獣医師会との間で学術連携協定を締結いたしました。特別講演Ⅱは北海道獣医師会会員の聴講を認めております。

令和7年11月1日（土）北海道歯科医師会館において北海道獣医師会主催の関連講演会が行われます。※道歯会通信9月号（No.906）・10月号（No.907）に詳細を掲載予定。

ワン・ヘルスとは

ヒト、動物、環境の健康・健全性に関する分野横断的な課題に対して、関係者が協力し、健康をひとつのつながった健康としてとらえて守っていくこと、その解決に向けて取り組むことを指します。この動きは世界的にも広がっています。

例として、鳥インフルエンザやマダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの人獣共通感染症および抗微生物薬が効きにくくなる薬剤耐性（AMR）の対策が挙げられます。

DT テーブルクリニック

大会第2日目（C会場） 13：00～14：00



デジタルデンチャーについて

株式会社プライムデンタル 代表取締役 **北島 正之**

歯科技工士業界は、就業歯科技工士の高齢化と若年世代の業界への流入減少により、将来的に歯科補綴装置の作り手不足が多方面で予測されております。「入れ歯難民」という言葉が一般新聞紙上で取り上げられるようになってきました。

生産性の向上は歯科技工士業界の喫緊の課題ですので、弊社でも人材確保と合わせてデジタル化による業務効率化に取り組んでおります。デジタルの利点として生産性向上が挙げられ3Dプリンターによるデンチャーフレームの製作に留まらず、3Dプリンター義歯用の人工歯が発売され、総義歯の製作も効率的にできるようになって参りました。

また、材料の視点に立つと加工機の普及に伴い、従来材料よりも優位性のある材料が切削加工機により加工できるようになりました。特にPEEK（ポリエーテルエーテルケトン）に代表される（スーパー）エンジニアリングプラスチック材料は、機械的特性に優れ、高付加価値の新たな義歯の可能性も感じております。

本発表では、弊社のデンチャー技工のデジタル化への取り組みを症例と合わせてご紹介させていただきます。



プロフィール

【ご略歴】

1985年 釧路東高等学校卒業
1987年 北海道歯科技術専門学校卒業
和田精密歯研（株）札幌出張所 入所
1995年 プライムデンタル開設
2001年 有限会社プライムデンタルへ組織変更
2008年 株式会社プライムデンタルへ組織変更

【歯科技工士会実績】

1999年～2013年 札幌歯科技工士会理事
2007年～2013年 札幌歯科技工士会専務理事
2006年～2009年 北海道歯科技工士会連盟理事
2010年～2014年 北海道歯科技工士会連盟副会長